

# 甲賀市文化協会

## 連合会文芸欄

ほおじろ短歌会

老いるとは術後の結果を受け止めてこれが私と自覚持つこと(白内障)

堀井 菊野

さきがけて楓の枝先朱の色に冷雨に濡れて生気みなぎる

山脇知鶴子

落花舞う桜の下にて昼餉なす四人の娘との会話はずみて

御崎ミサ子

去年五日杣川桜満開と今年はまだ八分咲きなる

八里 いよ

もがり笛遙か彼方の砂漠より黄砂引き連れ列島覆う

岡崎 照

「見つけたよ土筆と四つ葉のクローバー」帰省の孫の声弾みいる

村井 君代

朝寝する我が耳もとにささやけり鶯の鳴く二声三声

木下 房乃

石路が落ち葉を被り咲きほこる孫がその手でそつと払いぬ

井口 幸子

母と夫逝きし年越えわれ喜寿に一人で生きる想いはさまざま

千葉 和子

人々は桜花見上げて歓声上ぐ猫は背中に春の日のせて

鶴飼 洋子

トラクターは黒き舗道をキャンバスに春色ラインを描いておりぬ

山本 康子

ファックスで友が便りをカタカタと挿絵は桜今日は春色

藤田 悦子

痛む足かばいて通う整骨院遠廻りして桜の下ゆく

北川 浩子

初孫のその温もりに新しい命の息吹のふつふつを抱く

門 節子



甲南町文化協会



## 家庭教育 子育て・親育ち講座

～教育の出発点は家庭から～

第14回

あいさつから始まる  
コミュニケーション



「おはようございます」「いただきます」「ごちそうさまでした」「いってきます」「ありがとう」「ごめんなさい」「ただいま」「おかえりなさい」「おやすみなさい」…一日は「あいさつ」に始まって「あいさつ」に終わると言えるほど、多くの「あいさつ」の言葉で彩られています。

外国語の習得にも、その国の言葉での「あいさつ」をまず覚えるのと同様に、「あいさつ」は、コミュニケーションの始まりなのです。

家庭教育の中で、「あいさつ」が大切だと考えるのは、礼節の表現であるとともに、「心を開き、接近する」という語源があるように、相手への思いやりを伝える行為だからです。

気持ちのよいあいさつは、人の心を和ませるも

のです。言葉をつぶやくだけのあいさつではなく、目と目をあわせて、相手に声を届け、気持ちを送りあう「あいさつ」を、自然に子どものうちから身につけるには、家庭の日常生活からです。赤ちゃんにも、大切な「ことばがけ」の一つとして、「あいさつ」の言葉をかけてあげてほしいと思います。

家族だから堅苦しいとか、ちょっと恥ずかしいなど思わずに、一番身近な家族だからこそ「あいさつ」をかわし、コミュニケーションの基礎を親子の間でしっかりつくっておきたいものです。

問い合わせ ともも未来課 家庭教育振興係  
☎ 86-8171 ☎ 86-8380